東海腎臓病栄養食事研究会 発会式

名古屋第一赤十字病院医療技術部栄養課管理栄養士　伴野広幸（ばんの・ひろゆき）

2009年11月20日（金）、名古屋市中区の中外製薬株式会社名古屋支店8階会議室にて「東海腎臓病栄養食事研究会（通称：腎栄研）」の発会式が行われた。会長は井上啓子先生（新生会第一病院）で、腎と栄養に関する幅広い学習・研究を行うことで、医療に貢献し、腎疾患領域で活躍する管理栄養士・栄養士（以下栄養士）の結束と質の向上を図ることを目的とし設立された。世話人の一人として参加したので、当日の様子を報告する。

会長からのメッセージ

井上啓子会長からのメッセージで発会式は幕を開けた。本会は、①東海地区の腎疾患領域で活躍する栄養士の結束と質の向上を図る、②臨床で働く栄養士として客観的なデータを積み上げていくという2点を目指し、会員自らが「主体的に動く、ともに向上する、発信する」をキーワードとして活動していくことが宣言された。具体的な活動として、初年度は以下の3つの研究グループが立ち上がった。

本会の活動について述べる会長の井上啓子先生（新生会第一病院）。

①CKDステージ3・4・5の栄養管理のグループ、②論文抄読会グループ、③血液透析患者の5年ごとの栄養状態の評価グループである。今後会員は希望する研究グループに属し活動していく。一般的な講演を聞くというスタイルだけでなく、自ら考え、研究していくことでスキルを向上させていくことができると強く感じた。

これらの研究グループ活動を通し、会員一人ひとりがやりたいことを提案し、栄養士のための研究をすすめ、患者が食事療法に取り組みやすい環境づくりをしていくことを目指す。井上会長の頭のなかにはそんなビジョンができあがっているように感じたメッセージであった。

顧問からの言葉

会長からのメッセージの後、顧問・アドバイザーの先生方からお祝い、励ましの言葉をいただいた。なかでも山﨑親雄先生（増子クリニック昂院長、日本透析医会会長）のお話は印象的だった。山﨑先生は長年の栄養士との関係で感じていることを述べ、栄養士には「いい意味での図々しさ、力強さをつけていって、チーム医療のなかで存在感を示していってほしい」とエールをくださった。今後の研究のなかで、低たんぱく食が透析導入を遅らせることができるのかを検証していくことも必要となるため、栄養指導をしっかり行い、評価を出すことにより存在感を示していかなければならないと思った。

田中章郎先生（中部労災病院薬剤師、中部腎と薬剤研究会事務局長）、佐藤久光先生（増子記念病院副看護部長、日本腎不全看護学会理事）からも祝福の言葉を頂戴した。すばらしい先生方に当研究会の顧問・アドバイザーに就任していただき、本当にうれしく思う。

特別講演会

顧問の名古屋大学医学部腎不全治療システム学寄附講座・腎臓内科准教授である伊藤恭彦先生より「腎臓病のなりたちと治療～栄養士がいかに腎臓病とかかわっていくか～」と題し、特別講演をいただいた。

●腎不全大国

日本は腎不全大国であり、約28万人が透析を受けている。しかも毎年透析導入患者は1万人ずつ増えており、いかに早期に腎臓病を見つけて食い止めるかが重要な鍵となっている。早期発見の部分では、推算糸球体濾過量（eGFR）の活用が重要で、血清クレアチニンは初期の腎臓機能評価には反応が鈍いので向かない。eGFRはそのまま腎機能のパーセンテージに置き換えることができる便利な指標であり、このeGFRと尿たんぱく量を進行の指標として用いることが重要となる。進行を食い止めるには食事が強くかかわっているので、その役割を担う管理栄養士への期待は大きい。

●腎臓病の進行因子

腎臓病の進行因子には、①高血圧、②たんぱく質の過剰な摂取、③高コレステロール血症、④喫煙、⑤高リン血症、⑥貧血があげられ、そのなかでも「高血圧」がもっとも重要である。血圧が高ければ高いほど、腎障害は進行する。食塩摂取量は減ってはきているものの日本は食塩王国であるので、減塩によって全身の血圧を下げることと、降圧薬によって糸球体高血圧を改善させることが重要となる。また、腎不全患者は食塩の排泄障害があるので、過剰摂取分は体内に蓄積してしまうため、食事療法、とくに1日6g以下の減塩が重要であるという。

●栄養士への5つのメッセージ

伊藤先生から栄養士に向けて、5つのメッセージが送られた。①自分が指導した内容が、いかに腎臓病の進行を抑えることに意義があるか、期待されているかということを認識する。②栄養指導はできる限り、個々に合った指導を展開する。③指導内容は担当医にフィードバックする。栄養士からの情報は診療上たいへん有益になる。④必要であれば、何度もくり返して指導する。⑤こうした連携を続けていくことが病気の進行を抑え、透析導入の減少につながる。

顧問の伊藤恭彦先生（名古屋大学医学部腎不全治療システム学寄附講座・腎臓内科准教授）。

腎臓の解剖・生理から腎臓病治療の実際まで、盛りだくさんの内容を非常にわかりやすくお話しいただいた。全体をとおして栄養士へのエールを込めた講演内容であり、勉強になったと同時に「もっとがんばらなくては」という刺激を受けた。

世話人の一人として

このように東海腎臓病栄養食事研究会は盛大に発会した。私が想像していたよりも多くの方々に会の趣旨に賛同していただき、入会いただいたことをうれしく思う。一方で、たくさんの会員のみなさんにとって、有意義な研究会であり続けることの責任の重さもひしひしと感じた。今後は、顧問・アドバイザーの先生方の励ましを胸に、世話人・会員のみなさんと力を合わせて患者に貢献できる会にしていきたいと考える。